

NISSHA 株式会社
「2021 年 12 月期 WEB 決算説明会」
質疑応答の要旨
(2022 年 2 月 14 日開催)

- Q1. 2022 年の業績予想において、上期より下期に売上高、営業利益が偏っている理由は。
- A1. 上期は半導体不足などによる供給制約の影響を織り込んでいる。下期には改善することを見込んでいる。
- Q2. メディカルテクノロジー事業の収益性について、2022 年はどうのように推移する見通しか。
- A2. 2021 年 Q4 は原材料費、人件費などの増加の影響が最も大きく出た。2022 年は価格転嫁と増収効果により徐々に収益性が改善する見込み。
- Q3. メディカルテクノロジー事業における 2022 年の新規製品はどのようなものか。
- A3. 医療機器 CDMO で扱っている低侵襲医療用の手術機器などが中心。事業の主力市場であるアメリカにおいて大手医療機器メーカーとのパイプが強く、受注が拡大している。2022 年の売上高予想は当社供給が確定している製品で算出しており、確度の高いものだと考えている。
- Q4. メディカルテクノロジー事業の案件が増えていく中で、製造に多くの人手が必要になるか。
- A4. 半自動化で製造ラインをリーンにし、ライン当たりの人員数を少なくしている。また製品によってはドミニカ工場で製造するなど、当社がグローバル展開している製造拠点を効率的に活用する戦略をとる。
- Q5. 全社を挙げてメディカル市場に挑むということだが、メディカルテクノロジー以外の事

業部ではどのような製品が期待できるか。

A5. 産業資材事業では既に、医療現場で使用される資材や部品をアメリカの成形工場において製造している。また産業資材事業とメディカルテクノロジー事業が協同し、新たなお客さまの開拓を進めている。医薬品 DDS (Drug Delivery System) では口腔内フィルム製剤や経皮吸収型製剤と呼ばれるフィルム状の製剤の開発を進めている。

Q6. サステナブル資材の市場はどのようなところか。

A6. サステナブル資材は蒸着紙とパルプ成形品がある。蒸着紙のシェアは中国を除くグローバルで 50%程度を占める。パルプ成形品については、2021 年から医薬品のパッケージ資材として、ヨーロッパで本格的な量産を開始した。今後も受注が増加していく見込みで増産投資を行う。

Q7. 産業資材事業部において、2021 年の増収率が前年比 24%増だったのに対して 2022 年は 3%増に留まる理由は。

A7. 事業のファンダメンタルズは変わらない。供給制約の影響を織り込んでいる。

Q8. オーガニック成長のための投資と M&A 投資をどのような考え方で実行していくのか。

A8. 第 7 次中期経営計画 (2021 年-2023 年) の 3 年間で設備投資 200 億円、M&A 投資 250 億円を計画している。2021 年は M&A の検討件数は多かったがマーケットの買収価格が高騰していた。中期経営計画の 2 年目にあたる 2022 年は、高値づかみしないように注意を払いながら、メディカル市場を中心に M&A の実績を作り、非 IT の重点市場での成長を加速させたい。

Q9. 2022 年業績予想において、その他の営業利益が 2021 年の▲2,818 百万円から▲3,600 百万円になる理由は。

A9. 2021 年に為替差益が出た影響。

以上